
猫

描迷 氷菓

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

猫

【Nコード】

N8112M

【作者名】

描迷 氷菓

【あらすじ】

片思いな僕と猫の短編小説。

猫は暖かな陽だまりの中でアスファルトの地面に体をすりつけていた。

すりすり。

そんなに気持ちのいいものなのか。

すりすり。

朝、丁度七時半頃。

まだ、僕の頭からは眠気は覚めない。

ぎゅっと、まとわりついたまま僕から離れない眠気。

僕がじっと、猫を見つめても和やかな顔をして猫は体を地面にすりつかせる。

すりすり。

猫が体を動かす度に、首もとの鈴が優しく、眠気を誘うようになる。その猫のしなやかな体のラインや手入れされたきれいな毛には時間を忘れて見入ってしまう。

僕はいつものように、猫ににぼしを何匹かあげる。

あんまり、あげすぎるとこの猫の飼い主に怒られたりしそうで怖いし、猫のしなやかな体がなくなってしまいそうなのであげないようにする。

僕は猫を一度だけ撫でて、その場を立った。
人氣が少ないこの道は朝にぴったりなぐらい静かで
日が暖かく当たっていた。

猫との日向ぼっこを終え、僕の足は学校へと向かう。

大きく背を伸ばし、深呼吸すると少し眠気がとんだ気がした。

帰り。

朝通った道を通っても猫はいない。

朝しかない猫は、今、どうしているのだろうか。

僕は少し音楽の音量を上げた。

ヘッドフォンから聞こえる音が僕を包み込んでいく気がした。

朝とは違う、夜の帰り道が

朝とは違う、静けさを纏っている。

家に帰って、荷物を置く。

手と顔を洗って、机に向かう。

ペンを持って、問題集とノートを開く。

僕は開いている28ページ以降のページの問題はやることができない。

まだ、僕はそこまでの頭を持っていない。

だから、28ページの問題を全て終えてからゆっくりと閉じる。

この先のページは見てはいけない気がしたのだ。

見たら、自分に絶望するのではないか。

未来の自分は先のページの問題を解けるのかもしれないが、今の自分は解けないから。

猫はどうしているのだろう…。

夜、あの猫がどうしているのか。全く想像がつかない。

僕はただ、ふと疑問に思っただけですぐにペンをぎゅっと握り、次の問題集に目をやった。

昨日の勉強が影響したのか、朝、いつもより眠たかった。

それでも僕はいつも通りに猫のところへ行った。

初めてだった。

猫がいなかった。

いつものようにアスファルトにすりすりしていなかった。

今日は曇りでも雨でも、ましてや雪でもない。

暖かい晴れの日だった。

なのに猫はいなかった。

僕は5分ほどいつもの場所に座って待つてみた。

猫は来ると、思っていた。

けど、来なかった。

5分待つ。と決めたのに、いつの間にか10分になっていた。

僕は心に虚しさと悲しみを抱いて、立ち上がった。そして、いつもより重い足取りで学校へ向かった。

猫は次の日も、次の日も現れなかった。

野良猫はたくさんいた。

けれど、あのしなやかで毛並みのよい鈴をつけた猫はいつまでも現れなかった。

僕はなにも考えなかった。

毎日、毎日、いつもの場所で猫を待った。

来ない。

来ない。

それが普通になっていった。

前までは、猫がいたときまでは、猫と日向ぼっこをしてにぼしをあげて、撫でて登校するのが普通だったのに。

僕は毎日、そこでこっそりと泣いた。

声を出さずに涙だけ流した。

なんとなく、切なかったんだ。

寂しかったんだ。

泣きたくなったんだ。

誰も悪くないのに泣いた。

自分も、誰も悪くないのに泣いた。

自分で泣いている理由がうまく分からなかった。

あまつたにぼしを公園のゴミ箱に捨てた。

あの猫は食べれても、僕は食べれない。

他の猫にもあげ^る気がしなかった。

にぼしを捨てた日から、僕はもう、その場所に行かなくなった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8112m/>

猫

2010年10月21日21時51分発行